

第3回「土湯の森」自然再生検討会 ―自然再生基本構想まとまる―

山形県戸沢村高屋にある旧最上川スキー場跡地をどのように森林に再生するかを検討する第3回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生検討会が10月24日に開催され、冒頭、石井計画部長から挨拶があり、続いて『基本構想(案)』について意見交換が行われ、ほぼ全案のとおり委員の了承を得ました。



(検討会：戸沢村役場)

『基本構想』では、スキー場跡地が緑の回廊内であることから、原則として自然の回復力を活用して森林再生を中心とし、市民参加による活動とも連動して、緑の回廊としての機能回復を目指すこととなりました。

また、取組に当たっては、比較的稚樹の発生が多い区域を自然の推移に委ねる「自然推移ゾーン」とし、稚樹の発生が少ない区域は植栽や刈り払いなどを試験的に行う「森林再生ゾーン」として、それぞれ植生の推移をモニタリングすることとしています。

さらに、これまでの検討会における意見を踏まえ、植栽や刈払いなどの各種作業を教育関係機関等と連携しながら、自然環境学習の場としても活用することが決まりました。

今後は『基本構想』に基づき、現在のメンバーに新たに教育関係者やNPO等を加えた「自然再生協議会」を発足させ、現地における具体的な取組について実施計画を策定し、自然再生を目指すこととしています。